

G・アダムスキー通信

<発行の趣旨> 真実のコンタクティー（友好的な異星人との会見者）であったアメリカの故ジョージ・アダムスキー。彼が伝えた宇宙の真相と宇宙哲学を広く伝えることを目的に1996年、国際アダムスキー普及会を設立しました。当会では、この目的を達成することで、宇宙（宇宙の意識・友好的な異星人）と地球をつなぐ活動を推進しています。その一環として、宇宙的メッセージの発信と情報交換の場として、G・アダムスキー通信を発刊することといたしました。



冒頭語

G・アダムスキーを肯定する人々なら、彼が伝えた平和になるための教えや福音を含む稀有な内容について、真実であることを何とか証明したいと思うものです。その実現には、大きく3つの方法があると思います。

① UFOの研究 ② 生命の科学（宇宙哲学・法則）の研究実践 ③ 宇宙文字の解読

補足しますと、①については、UFOの存在を証明するため、自らの目撃や他者の目撃を科学的に検証し、情報公開法（情報の自由化法）等に基づく国内外の関係文書から否定し得ない事実を掘み、古くから現在まで、UFOは飛来し続けていることを人々に示すものです。これにより、アダムスキーが伝えたことが、荒唐無稽な話ではないことを知らせることができます。

②については、生命の科学の実践により多くの幸福を得て、自ら生命の科学が人類に必須な教えであることを証明し、宇宙誕生等の科学的な見解と、宇宙の法則との符合を示していくものです。この展開の中で、太陽系内の他の惑星での生命存在の可能性を提起していきます。

③は、オーソン（仮名）の靴跡の文様やネガに書かれていた符号を解読し、バシル・バン・デン・バーグが完成させた宇宙船のモーター等を開発し、アダムスキーの正当性を目にもものを見せるように示していくものです。

以上、①から③のいずれかでも成功すれば、アダムスキーの正当性が認められ注目を集めることでしょう。それはつまり、人類に大きな転機が訪れるということであり、人類史始まって以来という画期的なパラダイムシフトが実現することでしょう。

これは、長年の活動が実を結んだと喜ぶ以上に、人類にとっての栄光であり、放蕩息子の寓話の実現となるかもしれません。

しかし、これらは容易なことではありません。この実現を阻む勢力の存在も否定できませんが、非宇宙的な世界で生まれ、それに慣れ親しんでいることから困難となっているのです。本会では、主に②の実現により、アダムスキーの体験等を証明したいと考えているのです。

“言葉に注目”

<別な惑星へつれて行かれたパイロットたち>

by G・アダムスキー著『UFOの真相』（中央アート出版社）

これは、1963年5月にベルギー、アントワープにおける講演会に出席したアダムスキーが、個人の私邸において数名の出席者の質問に答えて語ったものです。

引用すると、「UFOが地球へ来るようになって以来、約200名のパイロットが行方不明になっている。あるパイロットは地球へ帰還してから、行方不明になっているあいだに何をしていたかを語った。・・・10分間の燃料しかないはずの航空機が・・・10時間も飛んで帰って来たのだ。」こんな実例は色々あるけれども、アメリカ政府はこれを好まず、本人は真実を語っているけれども疑われているということです。当時と比べ、件数こそ減っていると思われませんが、おそらく、今でも起こっているのではないかと考えられます。

「生命の科学」学習のポイントPart56

レクチャー5 『意識、英知、生命力』の7回目（最後）、「心というジャングル」です。

初めに、前回の最後に書いてある色々と不平を言う人々は、道を示してくれる光を樹木に隠されて、道に迷ってしまう人に似ていると指摘します。そして、「こんな状態のなかで死んでしまっただけで生命の真の目的を知ることもない人もあるでしょう。」と書いています。残念ながら、これが、普通の地球人の生き方なのだと思います。

続いて、莫大な富を持ちながら、本人の内部はきわめて不幸な人が居るとしてあります。そして、「自分が理解していないものを求めて生涯探し続けます。」と書いています。この意は、自分の知らないもの、あるいは未知なものに期待し探すものの、幸福はやってこないということです。それは、森林地帯＝“自我の意見”を脱していないからだと言っています。

ここは、多くの地球人、「生命の科学」の学徒さえも、この状態を理解できていない場合があると思います。理解できない人（ジャングルの中＝自我の意見）が、理解できる人になるためには、常にそのような過程を経るわけで、この辺を事前に認識しておくなど留意が必要です。

更に、「自分が探し求めている物はじつは自分の“半身”なのであって・・・」と書いています。自己の半身とは、真の自分、つまり魂＝意識ということなのです。

意識に従い、ジャングルを脱して広野の自由を楽しむ人もいますが、何を自分が発見したのかを知らないで、また、暗黒に戻る人もいると指摘しています。残念ながら、これが多い！

最後に、「人類の九九パーセントがこの種の“心というジャングル”のなかで生きているというのは不幸なことです。」と書いていますが、この人類の覚醒がSPの役割なのだと思います。

宇宙に“生きる”

<名言格言編56>

“看板に偽りあり”

看板に書いてあるのは良い物だが、実際には良くない品物を売っていることを言います。現在の社会では、お金儲けのためにこのようなことを行う場合も少なくありません。少なくとも、アダムスキーに関しては、看板に偽りなしを証明していく覚悟を持ちたいと思います。



Q: 「生命の科学」を短く説明すると? ※ここでは、よくある質問等をQ&Aとして書いたものです。

A: 宇宙には、万物が指針とすべき意識が存在している。それは、生命そのものであり、英知的存在で永遠不変である。地球では、先祖代々、因習や恐怖等を感じて生きてきた結果が肉体に反映し、各人独立する魂さえをも影響を与えている。宇宙の意識を感じ従うことで、肉体細胞が因果から解放され、真の宇宙人として永遠に生きるための手法が書かれているのです。

書物紹介

『「超常現象」を本気で科学する』 石川 幹人 著

本書は、明治大学教授（工学博士）が、幽霊現象や超能力などの超常現象に対して、常に客観的に思考しながら説明していく内容です。著者は、超常現象そのものを否定することはないのですが、それが人類に役立つかどうかを重視しています。テレパシーも認めるものの、10%程度の確率ならば役に立たないというような論調です。しかし、ポルターガイストは、人間の心理が作用していることが証明されているなど、参考になる事柄も多く書かれています。

学習会案内

『生命の科学』学習会。あなたをとおして“宇宙の意識”が輝きますように！

☆ 東京開催 ☆ 平成28年3月5日（土）、5月7日（土）、7月9日（土）、9月10日（土）、11月5日（土）は、台東区民会館で行います。時間は、すべて午後1時30分。会場代一人500円。当日、資料を配布します。

【編集後記】

私たちは、常に物事の背後を見るような視点を持つ必要があります。外交や政治、経済分野ばかりでなく、人間関係でも大切なことです。

URL: <http://www7b.biglobe.ne.jp/~adamski/>

G・アダムスキー通信 <第56号>

発行日 平成28年3月10日

編集発行 国際アダムスキー普及会

栃木県鹿沼市御成橋町 1-3000-1

発行責任 渡邊 克明 （禁無断転載）

G・アダムスキー通信

<発行の趣旨> 真実のコンタクティー（友好的な異星人との会見者）であったアメリカの故ジョージ・アダムスキー。彼が伝えた宇宙の真相と宇宙哲学を広く伝えることを目的に1996年、国際アダムスキー普及会を設立しました。当会では、この目的を達成することで、宇宙（宇宙の意識・友好的な異星人）と地球をつなぐ活動を推進しています。その一環として、宇宙的メッセージの発信と情報交換の場として、G・アダムスキー通信を発刊することといたしました。



冒頭語

“平和主義者”と呼ばれる人達があります。この人々は、他者を欺くことなく、問題点を話し合いによって解決しようとする正統派です。この考え方は、本来の人間の生き方において、正しい方向へ向かわせるための普遍的な思想だと思えます。

大陸文化のように、他者を欺くとか、勝つために手段を択ばないとか、勝利すれば敗者の誇りや歴史、文化さえも奪ってしまう思想とは相いれないものです。これは、地理的条件もあるでしょうが、古くからの日本人特有の思想なのだと思います。

特に日本人で、“平和主義者”と言われる人々は、弱肉強食のような資本主義になじめず、どちらかという社会的に弱い立場になることが多いように思えます。そして、社会の基礎に、非宇宙的な価値観や社会システムがあると気づいている人々もいます。それは何なのでしょう？

実質的に“平和主義者”の代表ともいえる「生命の科学」の学徒は、非宇宙的な価値観や社会システムが何であるのかを最も理解しやすい立場にあると思えます。

それは、一言で言えば、エゴを中心とする思想であるということです。損か得か、勝ちか負けか、名誉か不名誉かなど、一時的な利得、近視眼的な判断に基づくもので、エゴの思考そのものと思われるからです。

「生命の科学」の信奉者は、エゴ的な生き方が諸悪の根源であることを学んでいて、エゴの生き方から宇宙の意識に基づく生き方へ転換することが、地球の恒久平和のために必要であることを学んで来ているはずで

これこそが、オーソンが言った“地球人の苦悩を光の前の暗黒のように消すために「宇宙の創造主」を地球の道しるべにしよう”であると思えます。そして、この思想が、新約聖書の黙示録で綴られている“千年王国”の実現につながるのだと考えています。

つまり、夢のような“千年王国”が地球に実現するとすれば、それは、「生命の科学」で伝えるところの精神的な改革なくしてあり得ないと思われるからです。

“言葉に注目”

<自然が人間に背かないよう気をつけよ>

by G・アダムスキー著『金星・土星探訪記』（中央アート出版社）

この言葉は、アダムスキーが、1964年5月にメキシコのサンホセプルアで行われた公式な会合へスペースピープルとともに出席し、その中で伝えられたことの一部として書き記しているものです。当時は、核爆発実験が多く行われていたことから、“現在の兆候は自滅の方向にある”とし、“人間のエゴはあらゆる自然の法則の上位にそれ自体を置いている”として、表題の言葉につながっているのです。

つまり、自然に反する行為を繰り返すことは、いずれ自然から背かれるという警告です。これは、原爆以外にも当てはまりますが、アダムスキーは、会議のメッセージとして、原爆をやっていたレムリア人やアトランティス人以上に生き延びることはできないとしています。

「生命の科学」学習のポイントPart57

レクチャー6 『新鮮な想念で人体は若返る』の1回目、「勇気ある少数の人々が新鮮さをもたらす」です。

この前段に、前講のまとめ的な内容が書かれています。「肉体は心とは独立している一方、他方では心に関係してそれに服従しているある種の細胞群を持つことはご存知でしょう。」として、「これが人間が日常起こす争いの原因です。」と、その神髄を明快に説いています。このところは、自分なりの言葉に置き換えて確認しておく必要があります。

本論では、「・・・常に何か新鮮な物を探し求めているごく少数の人々がこの世に在ることにわれわれは感謝してよいでしょう。・・・よりよき生活の方向へ大衆を・・・引きずり続けているのは右のクラスの人々です。大衆はきわめてゆっくりと動いています。・・・このクラスの人々がいないならば、大衆はずっと昔に絶滅していたかもしれません。」と綴っています。

世の中は、二割の進歩的な人々と六割の進歩的でも怠惰でなくもない人々、そして二割の怠惰な人々から成っていると云われます。アダムスキーは、進歩的な人はごく少数と言っていますので、もっと少ない極めて進歩的な人を指しているようです。その人々が、大衆の進歩を促しているということで、「生命の科学」を学び実践している人々はそのクラスに入るものと思われれます。この人々は、他の惑星の経験が豊富で、更に地球での経験も豊かなのだと推測します。

次に、「新鮮さは進歩であるばかりでなく若さでもあります。」と書いています。進歩に対するウキウキ感を持つことは、言い換えれば、新しいものに興味を持ち続けることは、若さの秘訣であると言っているようです。心の新鮮さは、若さの維持に重要であるということです。

宇宙に“生きる”

<名言格言編57>

“ 毒を以て毒を制す ”

解毒のために毒を用いるということで、悪人を除くために他の悪人を利用するたとえです。

“目には目を歯には歯を、のように対立ではなく解決として用いている様に感じます。この辺は地球的で、悪人を正すのは善人ですが、悪人を滅ぼすのは、悪人であると解釈できます。



Q：どうすればUFOを信じてもらえる？ ※ここでは、よくある質問等をQ&Aとして書いたものです。

A：まず、発言者が社会的に信用される人である必要があります。そのうえで、一般的な宇宙論から知的生命体の可能性を伝え、地球の科学は、発展途上にあることを理解していただくことです。単に未確認飛行物体の存在ではなく、古典等を引き合いに出しながら、知的生命体の存在を説明する分けですが、信じられない人に無理に説明することは控える必要があります。

書物紹介

『南海トラフ地震』

山岡 耕春 著

著者は、私と同じ1958年生まれで、地震予知連絡会副会長でもある名古屋大学大学院教授です。今、一番可能性が高いと言われているのは、南海トラフ地震で、マグニチュード8～9という巨大地震です。今後30年間で、起こる可能性は70%ということです。大都市に影響を与えるこの地震は、日本経済と社会の中枢に未曾有の影響を及ぼすとされています。しかし、過去の地下核爆発実験などの影響もあると思われ想定を超えた大きな影響が懸念されます。

学習会案内

『生命の科学』学習会。あなたをとおして“宇宙の意識”が輝きますように！

☆ 東京開催 ☆ 5月7日(土)、7月9日(土)、9月10日(土)、11月5日(土)、平成29年1月7日(土)は、台東区民会館で行います。時間は、すべて午後1時30分。会場代一人500円。当日、資料を配布します。

【編集後記】

花咲き誇る春は、花壇や歩道に彩を加え、昆虫は孵化し、小鳥は巣作りに忙しくなります。万物に習い、私たちも活気づきたいものです。

URL：<http://www7b.biglobe.ne.jp/~adamski/>

G・アダムスキー通信 <第57号>

発行日 平成28年5月10日

編集発行 国際アダムスキー普及会

栃木県鹿沼市御成橋町 1-3000-1

発行責任 渡邊 克明 (禁無断転載)

G・アダムスキー通信

<発行の趣旨> 真実のコンタクティー（友好的な異星人との会見者）であったアメリカの故ジョージ・アダムスキー。彼が伝えた宇宙の真相と宇宙哲学を広く伝えることを目的に1996年、国際アダムスキー普及会を設立しました。当会では、この目的を達成することで、宇宙（宇宙の意識・友好的な異星人）と地球をつなぐ活動を推進しています。その一環として、宇宙的メッセージの発信と情報交換の場として、G・アダムスキー通信を発刊することといたしました。



冒頭語

アダムスキーが伝えた、この太陽系の真相や「生命の科学」で示された生き方などは、地球的な視点で見れば、パラダイムシフトともいえる大事件であり、同時に真理の見える人にとっては大変な宝であると理解されます。

しかし、アダムスキー亡き後、その賛同者は世界的に減り続け、その最大の支持者がいる日本においても、西暦2000年以降静かになっているように感じます。これは、アダムスキーを肯定するような事象、例えばUFOが公然と出現するとか、科学的に肯定されるような事実が発見されないことが大きな理由だと思われます。

中には、彼の最大の支持団体が解散したからという意見もありますが、そもそも賛同していた人々が他力本願であったり、想いや活動の意識が弱かったのではないかと思います。

例えば、「生命の科学」で書かれていることに魅力を感じたなら、インターネットなど何らかの方法で声をかけ、共感する人と共同学習や話し合いを行うようになるのが自然であると思われませんが、なかなかそうにはならないようです。

また、飽きっぽくて継続する力が弱く、宝を見出しても基本的な部分さえ理解しないうちに止めてしまうという傾向があります。これでは地球人が、スペースピープルから素晴らしいプレゼントをいただいても生かすことなどできないでしょう。

「生命の科学」の記載内容は、地球人には初めて知ること、学校教育や日々の生活において学ぶことがないものです。そのため理解が進まない場合もありますが、人間の真の生き方を理解できる書物であり、真摯に継続することで奇跡的事態が発生したり、無意味な人生を宇宙的に好転させる神聖な力があります。

これらを体験するには、大きな活動ではなく、近くの仲間に声をかけ、小グループの学習会などを継続することだと考えます。このような地味ながらも着実な活動が増えることを、スペースピープルも期待しているのだと思います。

“言葉に注目”

<他の惑星の人々が古代において地球に派遣されていた…>

by G・アダムスキー著『UFOの謎』（中央アート出版社）

表題に続いて、「・・・というのに、現代は派遣されていないとだれが言えるだろう。」と書き、「人類が苦難におちいるたびごとに彼らは出現して、それを切り抜ける方法を教えるらしいのだ。」と続けています。そして、「人類がそれを聞きいれるならば大抵は最小の努力で苦難をのがれるのであるが、その忠告を無視すれば人間は稼いで得たものだけを受け取るのである。」としています。そして、今日ほど苦難な時はないと言っています。

当時より、おそらく苦難の多い今日、彼らは、地球へ様々な支援を申し出ていると推察されますが、これを受け入れていないものと思われます。今後、更なる試練があるでしょうが、その時は、多くの人に彼らの支援が知らされるかもしれません。

「生命の科学」学習のポイントPart58

レクチャー6 『新鮮な想念で人体は若返る』の2回目、「想念は人体を作る彫刻家」です。

まず、「人間とは想念であるという点を明らかにしましょう。」と書いて、人間や他の動物のように形ある肉体を作るためには、“想念による原型”を持つ必要があるとしています。

「生命の科学」のすべてに通じることとして、形ある物質の形成には精神的な思い等のエネルギーが必要だと言っています。ここでは、宇宙の意識である創造主が、その原型を持ったとして説明しているわけです。

続けて、「人間は思考する実態です。」と書きます。そして、“想念は人間存在の刺激的な力”であるとして、自らの存在が想念の刺激によるため、何を成すにも人間は常に考えてから行動していると説き、そのガイドとなる想念は、①過去の体験の組み合わせ（経験的なもの）、②他人との交際（他者からの刺激）、③宇宙的な印象としてやって来ると言っています。

そして、異なる想念による観察として、“怒りの想念”が入ってくると顔は怒りを表現し、“楽しい想念”が起こると顔は楽しくなると書いています。表情を顔に出さない訓練を受ける人々は、このような違いはあまりないかもしれませんが、一般的には、このような違いが表れるでしょう。だから、一つの想念を粘土で形にする彫刻家と同じであるということです。

後半を要約すると、若々しくて健康で、均整のとれた肉体を望む本来の人間（知的実体）であれば、常に、自ら好ましいと望む想念を持つようにしなければならないと言っています。想念が人間の形態を作るのであれば、新鮮で若々しい想念を持ち続けることによって、タイトルのように“人体は若返る”のであると伝えているのです。

宇宙に“生きる”

<名言格言編58>

“大恩は報せず”

小さな恩を受けると、一般的にはその都度恩返しをしますが、広大な恩を受けるとかえって気が付かず、恩返しをしないでしまうということです。このようなことは、日常生活で意外とあるようです。SPの地球人への行為も、これに当たるものだと考えています。



Q：お金儲けは悪いこと？ ※ここでは、よくある質問等をQ&Aとして書いたものです。

A：そのようなことはありません。確かに、資本主義経済の悪い点は露呈していますが、それらは、ある程度、各人の思いで調整することができます。企業に勤めれば、当然ながらノルマを課せられたり、利潤追求に力を注ぐ場合もあります。誤解を恐れず言えば、お金儲けも意識の活用でもあります。要は、必要以上に欲張らないこと、人々のために働くことです。

書物紹介

『日本の敵』 宮家 邦彦 著

本書の帯には、“真の敵とは何か？”と書かれています。著者は、元外交官で外交のプロであり、外交政策研究所の代表を務めています。現在、参議院選挙を前に憲法9条の解釈や改憲について討論がされています。著者によると、潜在的脅威国を十分抑制する軍事的「能力」がなくとも、自国防衛の強烈な「意志」がある限り、その国は安泰である・・・ということです。今の日本は、むしろそこが危ないのだと思います。日本の敵は、自分自身なのです。

学習会案内

『生命の科学』学習会。あなたをとおして“宇宙の意識”が輝きますように！

☆ 東京開催 ☆ 7月9日（土）、9月10日（土）、11月5日（土）、平成29年1月7日（土）、3月4日（土）は、台東区民会館で行います。時間は、すべて午後1時30分。会場代一人500円。当日、資料を配布します。

【編集後記】

梅雨が明けると、ほどなく台風シーズンとなります。気候が変動している今日、大きな災害とならないことを祈るものです。

URL：<http://www7b.biglobe.ne.jp/~adamski/>

G・アダムスキー通信 <第58号>

発行日 平成28年7月10日

編集発行 国際アダムスキー普及会

栃木県鹿沼市御成橋町 1-3000-1

発行責任 渡邊 克明（禁無断転載）

G・アダムスキー通信

<発行の趣旨> 真実のコンタクティー（友好的な異星人との会見者）であったアメリカの故ジョージ・アダムスキー。彼が伝えた宇宙の真相と宇宙哲学を広く伝えることを目的に1996年、国際アダムスキー普及会を設立しました。当会では、この目的を達成することで、宇宙（宇宙の意識・友好的な異星人）と地球をつなぐ活動を推進しています。その一環として、宇宙的メッセージの発信と情報交換の場として、G・アダムスキー通信を発刊することといたしました。



冒頭語

最近、日本をはじめ世界各国で、過激な思想や暴力的な行動が増えてきているようです。これは、テロや残酷な犯罪の増加となって表れています。

なぜそのような事件が増えてきているのでしょうか？ 理由は様々だと思われませんが、貧富の差などの拡大や宗教的な対立、あるいは個人尊重からくる過激思想の容認など、経済や思想、社会組織的な課題など多くが指摘できるでしょう。

しかし、この辺のことを個別事象で論じている様では、いつになっても解決できないのだと思います。なぜなら、それらの背景の“そもそも論”が重要なのだと思うからです

貧富の差は差別意識が根底にあり、宗教の対立は自分達だけが正しいという偏狭心と組織の維持が根底にあり、個人尊重はエゴの尊大さの表れであるように思われます。これらの理由は、すべて共通していると考えます。これらは、“人間とは何か”を知らない、考えたこともない人々や組織、国家によって生み出されてきたものだと思うからです。

この“人間とは何か”は、性別や国家、惑星を越え宇宙的な問いであり解なのだと思います。そこを各人が真剣に考え、賢者やグループ、あるいは国家で考える必要があるのではないかと思います。そのうえで、家庭や社会、国家を組み立てていく必要があるのではないかと考えます。

この辺のプロセスが、意図的なのか完全に欠落しているということが、様々な問題の発端なのだと思います。現代社会では、なんとなく強いものが勝つ、賢いものが豊かになるという思いを持つ者が多く、その中で、多くの人々が対立しながら生きているように見えます。

“人間とは何か”の解は、誰もが同じ方向を向くものであり、従って助け合いによる共存であり、平和な社会が実現するものであり、精神性を高めるものが優位であり、何よりもそれらの基準（指針）となるものが“宇宙の意識”であることが肯定されるものです。

このことは、翻って「生命の科学」の学徒にも言えることで、「生命の科学」を学ぶ以前に、各人が“人間とは何か”を自己の考えとしてしっかりと持たなければならないと思います。

“言葉に注目”

<同胞や地球人としての私自身がつくづく情けなくなるのであった。>

by G・アダムスキー著『第2惑星からの地球訪問者』（中央アート出版社）

アダムスキーが、土星の母船に乗船した際、複数の男女と対談しましたが、その中で地球人がいかに迷っているかについて説明を受けながら、地球の情景とそこで起こっている人類の諸問題が眼前にひらめいて、表題のような心境になったというものです。

その理由として、「このような状態を正す仕事がいかに大変なものであるかという考えもわき起こったからである。」と書いています。

SPから語られた内容は、アダムスキーは充分承知していることですが、地球の同胞に伝えるために言われたものであるようです。アダムスキーが感じるように迷える地球の現況を理解させ、正道に向かわせるのは、残念ながら極めて困難だと誰もが思うことでしょう。

「生命の科学」学習のポイントPart59

レクチャー6 『新鮮な想念で人体は若返る』の3回目、「新鮮な想念によって肉体は若返る」についてです。

まず、宇宙の原理の一つとして、「人間は自分で考えたとおりの者になる」という言葉をあげています。金星人が若々しいのは、常に新鮮さという見地で思考しているからだと書いています。その例として、500歳になる金星人が元気盛りで、地球人の40歳は700歳の金星人より老けて見えるとしています。これは、大変な違いとなって表れています。

それというのも、「われわれは年齢とう見地でものを考え、数千年も続いた習慣に支配されています。」と言っています。つまり、年齢を基準に子供、青年、壮年、老人等と区別し、それぞれにあるべき人間像をイメージして、そのように振る舞おうとするからです。そしてそれは、人間社会で肯定され常識となっているからです。

これが良くないというわけです。加えて、習慣を古いマントに置き換えて、それを着るたびに古めかしい気分をもたらすと書いています。金星人は、年齢に関係なく、常に若々しい想念を持ち続けているから、肉体も若くいられるということです。

続いて、新鮮な想念の重要性を強調し、それと対抗的な想念とを混ぜてはいけないと注意を促しています。混ぜると、体内に悪い状態をもたらすということです。対抗的な想念とは、例えば、疑いや不安などの感情を意味しているものと思われます。

最後に、決意によって、肉体のすべての細胞を意識に従わせることができると教え、自分を長生きさせる場合にやらなければならないことだと書いています。

宇宙に“生きる”

<名言格言編59>

“ 便りのないのは良い便り ”

人は無事にいるときは、わざわざ手紙など書かないものであり、連絡がないのは無事な証拠であるから、心配するには及ばないということです。昔のことですから手紙となっていますが、現代では、EメールやLINEなどに入れ換えてみるとよく分かります。



Q：UFOコールの留意点は？ ※ここでは、よくある質問等をQ&Aとして書いたものです。

A：SPの存在確認など、いくつかの目的をもってUFOコールを行うことは悪いことではないと思います。しかし、きちんとした目的を持つ必要はあります。興味本位などで行くと、友好的でないUFOが出現する場合があります。そこに因を作らないこと。留意する点は、ここなのです。友好的なSPの存在確認など、明確な理由とイメージをもって行うことが大切です。

書物紹介

『Newton 2016.8』 (株)ニュートン プレス

本冊子は、恐らく知らない人はいないでしょう。本号では、「宇宙の大規模構造」、「イオンとは何だろうか?」、「過去の巨大地震を再検証」、「運動の脳科学」が特集となっています。特に、「宇宙の大規模構造」は、現在の天文学等で解明されている宇宙の構造について、写真や図解などにより分かりやすく説明されています。宇宙は、まだまだ解明されていなく、定説となっているものでも、事実と異なるものもあるでしょう。そのことを感じながら読みたいものです。

学習会案内

『生命の科学』学習会。あなたをとおして“宇宙の意識”が輝きますように!

☆ 東京開催☆ 9月10日(土)、11月5日(土)、平成29年1月7日(土)、3月4日(土)
5月6日(土)は、台東区民会館で行います。時間は、すべて午後1時30分。会場代一人500円。当日、資料を配布します。

【編集後記】

今回は、暑い中、オリンピックを見ながらの編集となりました。選手の気持ちを思うと、やはり、熱い気持ちになりますね。

URL：<http://www7b.biglobe.ne.jp/~adamski/>

G・アダムスキー通信 <第59号>

発行日 平成28年9月10日

編集発行 国際アダムスキー普及会

栃木県鹿沼市御成橋町 1-3000-1

発行責任 渡邊克明 (禁無断転載)

G・アダムスキー通信

<発行の趣旨> 真実のコンタクティー（友好的な異星人との会見者）であったアメリカの故ジョージ・アダムスキー。彼が伝えた宇宙の真相と宇宙哲学を広く伝えることを目的に1996年、国際アダムスキー普及会を設立しました。当会では、この目的を達成することで、宇宙（宇宙の意識・友好的な異星人）と地球をつなぐ活動を推進しています。その一環として、宇宙的メッセージの発信と情報交換の場として、G・アダムスキー通信を発刊することといたしました。



冒頭語

G・アダムスキーが目指したのは、どのような世界なのでしょう？

それについては、彼の活動や残された書物などから推測することができます。特に、「金星・土星探訪記」（中央アート出版社）には、それらを推測することができる文言が多く残されています。

アダムスキーが進めようとした計画に関して、「生存のための精神改革運動」、「人類の改善運動」、「世界の平和運動」という言葉が散見されます。これらの言葉を総合するに、アダムスキーは、「世界の平和」を目指していたのだと推測しています。

世界の平和は、人間の精神的な改革なくして不可能であることから、世界平和実現のために「精神改革運動」とか「人類の改善運動」と言っているのだと思われます。実際には、これらが達成できないならば、人類の生存さえ危ぶまれると言っているのです。

アダムスキー亡き後、50年以上が経過した今日、世界を見渡せば、アダムスキーの目指したものと反対方向に向かっているように思えてなりません。

アダムスキーが目指したことは、スペースピープル（SP）が願っていることと同じですから、その意にそぐわない世界となっているということです。

アダムスキーの活動は、世界の80パーセントを包含すると書いています。それほど大きな活動だったのですが、そのことを国際的な政策の一部（核不拡散等）では取り入れられたものの、さらなる改善については、多くの国々が利害関係から受け入れられなかったのだと思われます。

このようなことから、アダムスキーとSPは、国など公的機関での展開は期待できないとして、草の根運動としての展開に一筋の望みを託したのだと考えています。

具体的には、一般人への「生命の科学」の普及であったのだと理解しています。一般人とはいえ、そのことを承知の上で転生して来た人々の活動に期待しているということです。これらのことをご理解いただき、「生命の科学」の普及・継続学習の展開にご協力を願うものです。

「言葉に注目」

<永遠に価値あるものを求めながら結果（現象）の迷路のなかにさまよっています>

by G・アダムスキー著『21世紀 宇宙哲学』（中央アート出版社）

冒頭は、アダムスキーが、ファーコンと一人の紳士とともにロサンゼルスに住む異星人の家に行った際、ファーコンからマスターの寓話として伝えられた言葉の一節です。

リンゴの木は、種子から始まり「リンゴの木になれ」とせきたてる宇宙的な衝動により樹木に成長し、やがてリンゴの実をつけます。リンゴが熟し地面に落ちた場合、人間と同じであれば、自身の美しさと自由意志を喜び誇り、結果の世界でエゴを発達させて「困る親」を忘れてしまう。その結果、人間は、冒頭にあるように価値あるものを求めながら、結果の迷路の中をさまよっているということです。残念ながら、これが今の人間であるとしても、復帰できる無数の機会が人間に与えられているということですから、粘り強く歩いていきたいものです。

「生命の科学」学習のポイントPart60

レクチャー6 『新鮮な想念で人体は若返る』の4回目、「あらゆる細胞には同一の力と指導が適用されている」についてです。

「まず心と関係のある細胞について述べます。」として、次のように書いています。「・・・食物が肉体内に入ってくる時心はそれがどのようになるのかわかりません。」しかし、その処理法を知っている一団の細胞がいて仕事を遂行する。このことから、心とは別個の英知が食物を扱う仕事を引き受けているということです。

次に、消化のメカニズムを説明し、その過程が自然に行われるなら決して病気を知らないと言っています。しかし、心に関連している細胞群が、心が怒気を帯びることによって細胞に干渉すると不快な結果が起こるということです。そこで、宇宙の計画は規律正しいが、一方、心は不安定で指導を必要すると書いています。

続いて、細胞は肉体の完全な維持と機能を果たすためにグループとなっていて、これは、宇宙の構造と同じだと言っています。そして、肉体は、それを支える宇宙の総ての力を持っていると書いています。だから、人間がエゴのかわりに宇宙の計画のために働くならば、いかなる不快な結果も知らないということです。正に、理にかなった説明です。

最後に、足指の細胞群は手の指の細胞群と違うけれども、互いに協力し合っていて、同一の力と指導があらゆる細胞にひとしく適用されている。これは、宇宙の最低の表現から無数の物質に至るまで同様であり、宇宙の不変的な法則であると教えています。

宇宙に“生きる”

<名言格言編60>

“舌の根も乾かぬ内”

舌の根元のまだ乾かないうちということから、今言ったことが言い終わらないうちにということ。例えば、約束したことをすぐ破ったり、前言に反するようなことを言ったり行ったりすることです。これでは、人からの信用がなくなってしまうので留意が必要です。



Q：SPの活動が見えない？ ※ここでは、よくある質問等をQ&Aとして書いたものです。

A：アダムスキーを支持している人は、現状を見るに、このことが気になるでしょう。しかし、彼らは、確かに存在し、彼らの方法によりメッセージを発信しています。いずれ、多くの人にも分かるような活動に変わると思いますが、それまで粘り強く彼らを信じ支持していただきたいと思えます。ここに至り、間違っても軸足がずれることがないようにご留意願います。

書物紹介

『神々の魔術』・上 グラハム・ハンコック 著

本書は、「神々の指紋」で知られた著者が書き下ろしたものです。1995年に発掘されたトルコの巨大遺跡、ギョベクリ・テペが紀元前9600年前に建設されていたという研究成果と、ヤングドリラスと呼ばれる急激な寒冷化現象が起きた時期の符合に着目。各国の遺跡等の調査結果をもとに、彗星が地球に衝突し大激変が起こり文明が消滅したとの仮説を提唱し、「黄金時代が洪水と炎によって終末を迎えた」と認めています。消滅の理由が、彗星かどうかはあるものの、ムー大陸やアトランティス大陸の消失とも符合しています。

学習会案内

『生命の科学』学習会。あなたをとおして“宇宙の意識”が輝きますように！

☆ 東京開催☆ 11月5日(土)、平成29年1月7日(土)、3月4日(土) 5月6日(土)、7月8日(土)は、台東区民会館で行います。時間は、すべて午後1時30分。会場代一人500円。当日、資料を配布します。

【編集後記】

今回は、冒頭語を早い段階で作成しましたが、その後は、何時ものように余裕のない状況でした。しかし、少しでもお役に立てれば幸いです。

URL：<http://www7b.biglobe.ne.jp/~adamski/>

G・アダムスキー通信 <第60号>

発行日 平成28年11月10日

編集発行 国際アダムスキー普及会

栃木県鹿沼市御成橋町 1-3000-1

発行責任 渡邊克明 (禁無断転載)